



2024 年 11 月 28 日放送

日薬アワー 第 57 回日本薬剤師会学術大会「彩(さい)」

日本薬剤師会
常務理事 山田 武志

第 57 回日本薬剤師会学術大会は 2024 年 9 月 22、23 日と二日間にわたり、いろどりと書いて「彩(さい)」をメインテーマに、「大宮ソニックシティ」と「さいたまスーパーアリーナ」「パレスホテル大宮」を会場として埼玉県さいたま市で開催されました。今大会も前回に引き続き、現地参加と Web によるライブ配信参加の併用というハイブリッド形式による開催で、参加登録者数は現地参加 6,970 名、Web 参加 1,149 名の計 8,119 名が参加いたしました。

日本薬剤師会の学術大会は今回で 57 回目となりますが、実は埼玉県での開催は初めてとなります。今大会の大会運営委員長であります埼玉県薬剤師会の斉藤祐次会長によりますと、これまで何度も学術大会を開催している東京都に隣接している埼玉県での開催は、これまで積極的には検討してきておりませんでした。しかしながら、時を経て、交通の便が格段に良くなり、開催会場や宿泊施設も充実してきたことから、今回、埼玉県での開催を決めたとのことです。初開催ということもあり、大会の企画段階から会員一同知恵を出し合って内容の検討を行い、メインテーマに「彩(さい)」を掲げ、薬剤師を取り巻く環境は決して楽観できませんが、「薬剤師の未来を作るにはどうすべきか」「自分たちで自ら発信することが必要ではないか」「楽しみながらもその思いを表現しよう」と、「彩の国」埼玉県で行われる、「薬剤師の未来を彩る大会」という願いを、このメインテーマに込めたとのことです。

今回の大会では、試行的な対応として、大会一日目の研修単位について、一日受講する参加者には例年通り 4 単位を付与しますが、新たに、午後から半日受講する参加者に対して 2 単位を付与することとしました。これにより、これまで大会一日目に、交通事情などで朝の PECS 入場時刻に間に合わなかった方も、午後からの入場で半日受講として救済することができるようになりました。また、今大会の参加登録をされた方のみの視聴となりますが、

大会終了後の10月11日から約1か月間、特別講演や分科会のオンデマンド配信を実施しました。これにより、現地やライブ配信で参加していても時間が重なってしまい見たい分科会が見られなかった方や、当日会場がいっぱいで分科会に参加できなかった方、現地やライブで聴講したがもう一度聞きなおしたい方など、後日改めてオンデマンドで確認できるという選択肢も増えました。また、オンデマンド視聴によって埼玉県薬剤師生涯学習研修センターの研修単位を発行することも今回の大会独自の試みとして実施されました。

それでは、ここからは大会の様子をお伝えしたいと思います。まず、初日の開会式では大会会長であります岩月進日本薬剤師会会長より、「本学術大会のコンセプトは、薬剤師による学術発表を通じて、薬剤師の未来を彩る大会にしたいとあるが、平成25年に構築された地域包括ケアシステムの総括を来年迎えるにあたり、地域包括ケアの下において、薬局・薬剤師は何ができるのか、どのように地域に貢献していくのか、薬剤師の未来を想像したとき、参加者の頭の中にはご自身の将来の姿が思い浮かぶ機会創出になることを願う」と述べられました。続いて登壇された大会運営委員長の斉藤埼玉県薬剤師会会長は、「自分たちは、参加者の方々の発表する舞台を整えた。2日間にわたり様々な議論をされると思うが、楽しみながら薬剤師の未来に向けて、皆様の思いを表現していただきたい」と述べられました。その後、岸田文雄内閣総理大臣よりお祝いのビデオメッセージが流され、来賓祝辞として、武見敬三厚生労働大臣、盛山正仁文部科学大臣、大野元裕埼玉県知事、清水隼人埼玉市長、金井忠男埼玉県医師会会長より、それぞれご祝辞が述べられました。また、開会式第一部の式典では、本会公式キャラクター「ふあるみん」の発表も行われ、1,902件の応募の中から日本薬剤師会選考委員会による選考で見事、最優秀賞に決定した、作者である、ペンネーム「ちゃむたぬ」さんへ、岩月会長より記念品等の贈呈も行われました。「ちゃむたぬ」さんからは「動物や妖精などにすることも考えましたが、日本薬剤師会を代表するキャラクターであるため患者さんや薬剤師によりそえるものを」との考えから、人間の薬剤師をモチーフに、髪型をカプセル剤にすることで、明るく親しみを感じられる印象を持たせたことなどについて紹介されました。「ふあるみん」は今後、日本薬剤師会の様々な広報活動に活用されますので、皆様もぜひ、日本薬剤師会公式キャラクター「ふあるみん」の活躍を楽しみにして下さい。

第一部の最後には、斉藤大会運営委員長より、次回開催地である河上京都府薬剤師会会長へ薬剤師綱領楯の引継ぎが行われ、今回は2025年10月12、13日の二日間、国立京都国際会館において「そうだ、薬剤師に聞いてみよう！～プロフェッショナルリズムの涵養～」をメインテーマに開催されることが発表されました。

開会式第二部の表彰式では、令和6年度の日本薬剤師会賞6名、日本薬剤師会功労賞8名の方に岩月会長より表彰状並びに副賞が授与されました。

第三部の特別記念講演では、順天堂大学医学部・大学院医学研究科心臓血管外科学講座特任教授の天野篤先生より「人生100年を彩るために心臓との付き合い方」と題した講演が行われ、心臓病予防のためには生活習慣の基本的な改善が重要であることや、若々しい高齢

者であるためのヒントなどを学ぶ機会となりました。

このほかに、特別講演では、総合メディカル株式会社所属で東京・パリパラリンピックで2大会連続金メダルを獲得した、薬剤師の杉浦佳子先生による「薬剤師パラサイクリストからのメッセージ」と題する講演や、埼玉県立大学理事長の田中滋先生による「2024年に向けた医療・介護政策の展開と薬剤師に期待すること」と題する講演、公益社団法人日本医師会会長の松本吉郎先生による「日本の医療・介護～これからの薬剤師との連携について」と題する講演など大変貴重なお話を聞く機会を得ることができました。

開会式の後には、初日の午後より翌日の午後までの二日間にわたり、20の分科会、会員による137題の口頭発表、330題のポスター発表、そして、会長講演、県薬企画、薬学生シンポジウム、ランチョンセミナー、スイーツセミナーなど多彩なプログラムが実施されました。

このうち、分科会では医療DXや感染症対策、後発医薬品の供給問題、能登半島地震をとおした災害時の薬剤師の役割など20のテーマが用意され、多くの会場で活発な発表が行われ、参加者の数が多く席が間に合わなくなる会場も出てくるなど、どこも活況を呈しておりました。

一日目の夜には、5年ぶりとなる大会懇親会も開催されました。会場では久しぶりの大会懇親会を通じた対面での交流の場を多くの参加者が楽しむ中、懇親会の後半では映画『翔んで埼玉』のテーマソングを歌っている「はなわ」さんのステージパフォーマンスが催され、埼玉県薬剤師会の役員の方々も次々とステージに登場し、こちらも大いに盛りあがりました。

本会では薬剤師の調査・研究活動への意識向上や、調査・研究内容のさらなる質的向上に資することを目的に、第48回鹿児島大会より、ポスター優秀賞を創設し、ポスター優秀賞審査委員会において、学術性、新規性、将来性、医療等への貢献度など総合的な観点から審査を行い、ポスター優秀賞を選考しておりますが、今大会で発表された330題のポスター発表から最優秀賞1題、優秀賞5題が選出されました。このうち最優秀賞には栃木県薬剤師会の鹿村恵明先生らが発表した「栃木県における薬剤師、歯科医師、歯科衛生士の連携による在宅患者のオーラルフレイル予防」が受賞されました。

大会二日目の午後には、県民公開講座として、元埼玉県警察本部刑事部科学捜査研究所長で警察庁指定広域技能指導官である猪井剛先生による「子供から大人まで、誰もが楽しめる白骨死体の鑑識学」と題した講演が行われ、県民から約1,000名のご参加をいただき、無事に大会の全日程を終了いたしました。

最後になりますが、今大会にご尽力いただきました埼玉県薬剤師会の皆様に深く感謝の意を表しまして、本日の私の話を終えさせていただきます。皆さん、来年は京都でお待ちしております。